



令和三年度
総会及び俳句大会 中止
大会募集句の選句、受賞は実施

令和三年度総会及び俳句大会は、六月五日（土）午後一時より北日本新聞ホールに於いて開催の予定であった。

四月三日（土）北日本新聞社、十階会議室にて今年度の役員会を開催。

中坪達哉会長の挨拶の後、中島平太事務局長が令和二年度の事業報告、収支決算報告を行い、大久保置箔監事が監査報告を行う。

続いて、中島平太事務局長が令和三年度の事業計画、収支予算案を提案。

又、中坪達哉会長から昨年度の事

業は新型コロナウイルス感染の終息が見られず、計画した大会事業を取り止めたことを残念に思うと同時に、今年度は是非実行できるように願いたいと述べ、議案趣旨に役員一同賛同し閉会。

しかし、それ以後変種ウイルス感染症の拡大を含む感染の第四波による脅威に、急遽、令和三年度の総会、俳句大会及び夏季吟行会を中止することに決め五月六日、事務局より全会員にその旨を葉書で連絡。

よって役員会で総会議事の全てに賛同得たものを総会に代わって承認

令和三年七月一日発行
富山県俳句連盟
富山県安住町二一四
〒930-0094 電話 〇七五-四四一-四四
振替番号 金沢 五一一七二〇八
北日本新聞社編集局内

合同句集（第四十六集）
原稿募集
句集を次のとおり刊行いたします。同封の原稿用紙により全員ごぞってご応募ください。

されたものとする。

また、春季俳句大会募集句、六一四句（三〇七名）については連盟役員によって選考された。その特選句入賞句の賞状、賞品は直接事務局より各入賞者に発送した。

そして、六月九日の北日本新聞紙面に入賞作品は掲載され公表となる。尚、子細は本会報九十二号に掲載され発表とする。

今般の対応はコロナウイルス感染防止のためやむを得ぬ対応であった。

富山県芸術祭主催
富山県民芸術文化祭参加
富山県俳句連盟秋季俳句大会（予告）
講師 ミュゼふくおかカメラ館
館長 金山嘉宏 先生
日時 十月三日（土）午後一時
会場 北日本新聞ホール
※越の讃歌 テーマは「川・河」

富山県俳句連盟
夏季吟行会 中止
日時 七月十八日（日）午後一時より
会場 射水市高周波文化ホール
右の通り予定していましたが、新型コロナウイルス禍の関係で中止と致します。

〇作品数 十五句（平成二年七月から令和三年六月までの自選句）
〇記載要領 所定の原稿用紙に姓号、（ふりがな）作品（春夏秋冬の順が望ましい）、本姓名、生年月日、郵便番号、住所、電話番号、所属結社または句会名を記載する。希望者は住所等の未掲載も可。
かなづかいには新旧混用せず何れかに必ず〇を付けること。
〇締切 七月二十四日 必着厳守。
〇出句料 三千元（一冊進呈）
同封の振替用紙で原稿発送と同時に郵便局へ払い込むこと。
〇送付先 〒九三五一〇〇〇五
氷見市栄町一〇一六
坂田直彦 方
富山県俳句連盟合同句集係宛
〇刊行予定 十月

春季俳句大会作品抄

連盟選者特選句

義信選	青き踏む全校百の靴が鳴る	脇坂琉美子
順子選	撫で牛の尻ひんやりと梅白し	吉野 恭子
かつを選	初蝶のふはり景色を展げゆく	新村美那子
冬青選	一山の簗を抜け鐘霞む	宇波可津志
英子選	春泥に遊びし靴の凱旋す	森 純子
玲子選	犬ふぐり聖火ランナ近くまで	宮田 悦子
可津志選	もの芽を見てよりじつとしてをれず	丸田美恵子
置箔選	たんぼばやくしごとなき子の話	八田千恵子
こつき選	背広から野良着へ父の暮遅し	二俣れい子
康裕選	後ろ手に歩くふるさと花菜風	石田阿畏子
久惠選	初蝶のふはり景色を展げゆく	新村美那子
城子選	奏者への総立ち卒業コンサート	加藤 英一
ゆづ子選	酸葉噛み少年の頃近づける	平譯 宏修
弥生選	もの芽を見てよりじつとしてをれず	丸田美恵子
富美子選	花ぶぶき一度降りたき無人駅	二俣れい子
美智子選	裏山にまんさくが咲く少年期	八尾とおる
洋子選	大根の干され早寝の漁師町	中尾 三久
直彦選	似顔絵にはくろがひとつ花曇	平野もとみ
一子選	履きしま洗ふ長靴春夕焼	平木美枝子
重之選	春深しピアノ一本指で弾く	片桐 久恵
吉章選	花に來し鳥の自在を見てをりぬ	稲田 節子
桂子選	桜東風誰れにも会はぬ手を洗ふ	石灰 潤子
恵子選	背広から野良着へ父の暮遅し	二俣れい子
昭夫選	竜天に登る青年村を出る	町田 忠治
眞知子選	カーネーションよく動く手は母譲り	島竹 渥子

寿山選	春眠の奈落にチャイム鳴りひびく	大西 昭子
三久選	振り消しの隣寸の匂ふ余寒かな	民谷ふみ子
平太選	花散るや母を見送る0番線	横山 優子
達哉選	洗ひ場の角に残りし春の土	澤田 敏江
睦子選	こくばんもつくえもゑがほ一年生	水野 元雄
美知子選	背広から野良着へ父の暮遅し	二俣れい子
多佳子選	さくら見て山見て母の忌を過ぐす	堀 眞智子
稔選	振り消しの隣寸の匂ふ余寒かな	民谷ふみ子
栄子選	花のごと散れと言はれし若者よ	畑 真理子
幸子選	夏兆す立山写し子にメール	松原 暢子
千鶴子選	後ろ手に歩くふるさと花菜風	石田阿畏子
純子選	畑から声の飛ぶ村一年生	林 紀男
とおる選	立山の絵の招待状や風光る	堀 智恵子

◇入賞句

天位⑩	大根の干され早寝の漁師町	中尾 三久
地位⑧	背広から野良着へ父の暮遅し	二俣れい子
人位⑧	あたたかや蹴打つ音も土の香も	大崎 寛子
4位⑦	春風が先づ乗り込んで峽のバス	久崎富美子
〃	もの芽を見てよりじつとしてをれず	丸田美恵子
〃	言ひ足りぬことばのやうに椿落つ	但田 長穂
〃	桜東風誰れにも会わぬ手を洗ふ	石灰 潤子
〃	春泥に遊びし靴の凱旋す	森 純子
〃	こくばんもつくえもゑがほ一年生	水野 元雄
〃	さくら見て山見て母の忌を過ぐす	堀 眞智子
5位⑥	深海の闇吐きだせり蛭鳥賊	川辺智恵子
〃	人寄れば昔の話あたたかし	丸田美恵子
〃	寝る仕草して静まりし祭獅子	村山 志水
〃	畑から声の飛ぶ村一年生	林 紀男

6位⑤	前髪を上げて検温花菜風	杉本 恵子
〃	純白のソックス脱いで卒業す	高木 昭夫
〃	振り消しの隣寸の匂ふ余寒かな	民谷ふみ子
〃	路地抜けて東風一湾の波となる	河岸 佳子
〃	家ちゅうに介護の手摺付けて春	大久保置箔
〃	春めくや卓袱台にある農日記	西野 睦子
〃	3・11盛り土の下に村一つ	鈴木 幸雄
〃	春光や子の笹舟の加速せり	石田阿畏子
〃	後ろ手に歩くふるさと花菜風	石田阿畏子
〃	うららかや砂のとりことなりし児ら	湯口しずえ
〃	青き踏む全校百の靴が鳴る	脇坂琉美子
〃	たんぼばやくしごとなき子の話	八田千恵子
〃	はにかみて手足の長き卒業子	室井千鶴子
〃	野水仙風のかたちを壺に挿す	河内ゆう子
〃	入学の靴紐きつく結びけり	飯干ゆかり
〃	職退きて春空へ干す白衣かな	今村 暢子
〃	初蝶のふはり景色を展げゆく	新村美那子
〃	草餅の重箱膝に夜行バス	澤田 宏

富山県現代俳句協会

秋季吟行俳句大会(予告)

日時 九月二十三日(木・祝)午前十時受付
 会場 黒部市宇奈月国際会館 セレネ3階
 参加費 二句、千円
 第十五回ジュニア俳句大会 作品募集

俳句協会富山県支部

俳句大会(九月)は中止といたします。



大会講師

村上喜代子 先生

俳誌「いには」主宰 平成十七年一月創刊
俳人協会評議員 文藝作家協会会員
NHK文化センター、産経カルチャー俳句講師

富山県俳句連盟春季俳句大会選と選評

特選五句

10 蜃気楼出でてその都度小走りに 水白津奈子
天文現象の蜃気楼。出たと聞くとなぜか小走りになって見に行く。蜃気楼を心理の綾から表現した面白さ。

80 立山のまぶしき里や雉子走る 浅野喜代美
立山は富山県の歌枕である。その歌枕が季語の雉子によっていっそう引き立つ。堂々とした立て句。

332 花びらの飛んでダム湖の藍深し 野村 邦翠
花びらを目で追うと満々と水を湛えたダム湖に。一片の桜とダム湖の小と大、白と藍の色の取り合わせがうまい。

525 あゆの風負け力士にも父と母 浅尾 京子
優勝した力士やその父母に光が当たるのは当然だが、この句は負けた力士の父母を詠んだ意外性と優しさ。

595 てふてふのとぶは筆談かも知れぬ 酒井 和世
蝶のためらい勝ちの飛び方から筆談を思う、とは、思いがけない発想。これを読み取れば蝶と会話ができそう。

並選二十句

- 2 はこべ咲く長きホームの無人駅 牧山美佐子
- 51 前髪を上げて検温花菜風 杉本 恵子
- 70 振り消しの燐寸の匂ふ余寒かな 民谷ふみ子
- 108 雪女志功の庵へ入っていく 境田 芳雄
- 111 振ってみし今日播きどきの種袋 寺田 恭子
- 115 人寄れば昔の話あたたかし 丸田美恵子
- 116 ものの芽を見てよりじつとしてをれず 丸田美恵子
- 131 三月の十一日も十年目 川井 城子
- 151 地虫出づ夫の遺品に虫眼鏡 青木 章子
- 168 過去のことおぼろ明日はなほ朧 荒木かづを
- 210 一輪の椿客間の繋りたる 木澤つとむ
- 254 履きしまま洗ふ長靴春夕焼 平木美枝子
- 275 立山を見上げる暮し入り彼岸 杉田 富夫
- 305 稜線の寝釈迦へ供華の紫木蓮 金山美恵子
- 316 風光るパン職人の烏打帽 跡治 順子
- 370 弁当のふたに飯つぶクローバー 明官 雅子
- 377 老いて知る自由と孤独春炬燵 谷 雅夫
- 419 花ぐもり鏝絵の龍の動きだす 松谷眞佐子
- 488 脳トレや一句生まるる花の下 平譚 敏子
- 528 うららかやせんない愚痴を猫にいふ 神田 邦子

令和四年春季大会には村上喜代子先生のご講演を頂きます

令和2年度収支決算報告

(単位:円)

Table with 10 columns: 科目, 予算額(A), 決算額(B), 差(B-A), 備考, 科目, 予算額(A), 決算額(B), 差(A-B), 備考. Rows include 繰越金, 会費, 過年度分会費, 助成金, 寄附金, 合同句集代金, 雑収入, and 合計.

(収支差額(収入合計-支出合計) 674,166円は次年度へ繰越)

令和3年度収支予算

(単位:円)

Table with 10 columns: 科目, 予算額(A), 前年度予算額(B), 差(A-B), 備考, 科目, 予算額(A), 前年度予算額(B), 差(A-B), 備考. Rows include 繰越金, 会費, 過年度分会費, 助成金, 寄附金, 合同句集代金, 雑収入, and 合計.

消 息

○現代俳句協会は令和三年度、総会、及び春季俳句大会をコロナ禍のため、紙上大会として、四月二十二日選句結果を発表。投句総数二二四句。投句者一〇七名全員で互選。

天位 手鏡で足りる身支度山笑う

跡治 順子

地位 地球儀の中はからっぽ春の風

平野もとみ

人位

逆上がりせむと子が蹴る春の土

久崎富美子

○第三十回北陸現代俳句協会俳句大会 (担当は福井県)

福井県知事賞

大寒の皿純粹な玉子焼き

森川 敬三

福井県現代俳句協会賞

秋灯の揺らぎはシャドーボクシング

森野 稔

一句賞

ポケットに握るものなき寒さかな

森川 敬三

句集ほか出版紹介

「57507」俳誌五七五 7号

合3・3

みのり俳句会合同句集第15号

合3・3

峡谷 創刊十八周年記念第64号 合3・5

受 賞

YKK桜花園コンクール 俳句部門 1位 北日本新聞社賞

吹きわたるこの風の先花筏 濱田 螢子

計 報

県俳句連盟理事 長沼 三津夫氏 令和二年十二月七日、ご逝去。謹んで哀悼の意を表します。

第40回 とやま文学賞 作品募集

俳句 未発表句 二十句

(四百字詰原稿用紙を使用、ワープロ・パソコン原稿は二十字二十行打ち、部門・作品名(ふりがな)・住所(郵便番号)・氏名(ふりがな)・生年月日・年齢・電話番号・職業・略歴を付記)

締切 令和三年九月末日 送り先 〒930-0096 富山市舟橋北町七一 (財)富山県芸術文化協会事務局 <とやま文学賞> 係宛

編集後記

連盟会報92号をここにお届け致します。次回93号は令和三年十二月一日発行予定です。会報に関する記事等があれば、原稿用紙記入の上、左記に送付下さい。(郵送又はFAXのみ)

〒951-8211 南砺市理休 三六

川井 城子

FAX・TEL (076) 621-2308